

「日本語教育の課題は日本社会の課題だ！」という視点からの発信

# 21世紀の「日本語教育」を共に考える集い

—日本人・日本社会に貢献する「日本語教育」、その新たな地平をきりひらく—

主催：(社)日本語教育学会 日本語教育振興法法制化ワーキンググループ

<http://www.houseika2012.net/wordpress/>

後援：日本言語政策学会

総合司会：新矢 麻紀子 (大阪産業大学教養部准教授)



■第1部：基調講演：小森 陽一 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

◆「21世紀、日本語教育のはたすべき役割」

13:30～14:30

14:30～15:00 Q & A

■第2部：パネルディスカッション

◆「地域が輝く、日本を変える、日本語教育」

発題者1：宮崎 里司 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)

15:20～15:40

◇「外国人の学習権保障と日本語教育」

義務教育未修了者に対する学習権保障の観点から、学齢超過の外国人、公立中学校夜間学級で学ぶ外国人生徒や、少年院の外国人収容者に対する日本語教育の充実を図るため、省庁間の横断的な取り組みの必要性について、問題提起する。

発題者2：野山 広 (国立国語研究所日本語教育研究・情報センター上級研究員) 15:40～16:00

◇「地域が輝く！？：「日本語学習支援」の現場から見えてくること」

地域の日本語学習支援の現場は、日本の多言語・多文化化の拠点であり、水際となっている場合が多い。水際の水先案内人や繋ぎ役と交流した人々がなぜ輝いているのかについて考察しながら、コーディネータが担う役割の重要性について論じる。

発題者3：平高 史也 (慶應義塾大学総合政策学部教授)

16:00～16:20

◇「日本を変える「日本語教育のスタンダード」」

「日本語教育のスタンダード」はコースデザインや評価のツールとしてばかりではなく、日本語母語話者の言語能力の評価や国語教育の見直し、多言語・多文化化が進む国際社会への橋渡しの可能性も秘めていることを論じる。

コメンテータ：小森 陽一

16:20～17:20 フロア

司会：木村 哲也 (杏林大学外国語学部非常勤講師)

との対話

■日時：2010年6月26日(土)、13:30～17:20 (13:00開場)

■会場：東京大学駒場キャンパス 12号館 2F 1225教室

■参加費：¥1,000 (当日受付にて現金精算) ■参加方法：事前メール申込み\* (先着順)

■受付期間：4月1日(木)～6月21日(月) ※定員150名まで。

■申込先：(社)日本語教育学会事務局 Tel:03-3262-4291 タイトルを「6.26参加希望」として、お名前、ご所属、電話番号、Eメールアドレス、学会会員か非会員かを明記の上、webapply@nkg.or.jp までメールをお願いします。

\*メールがご利用にならない方は事務局にご相談ください。